

はだの交通計画



ごあいさつ



昨年1月1日に市制施行60周年を迎えた本市は、自然豊かな丹沢山地と渋沢丘陵に抱かれた県内唯一の盆地の地形を有している一方で、都心からの交通利便性が高いことから、“みどり豊かな暮らしよい都市（まち）”を将来都市像として掲げ、魅力あるまちづくりのためにさらなる発展を目指しています。

この都市像の実現に寄与する都市基盤の整備として、現在、平成32年度の開通に向けて新東名高速道路の整備が進められており、本市内には秦野インターチェンジ（仮称）及び秦野サービスエリアスマートインターチェンジ（仮称）が設置されることとなっています。

東名高速道路と合わせて、市域の南北に巨大交通ネットワークが整うことで、産業集積のポテンシャルが飛躍的に向上し、市内企業の活性化や市外からの企業進出による税収の増加、これらに伴う新たな雇用の創出などの効果を期待することができます。

鉄道駅周辺においては、鶴巻温泉駅南口周辺の整備、秦野駅南部（今泉地区）の土地区画整理事業、秦野駅北口周辺の再整備など、人口減少や少子高齢化に対応するためのコンパクトな集約型都市構造に向けた事業を進めています。

これらの拠点を高質な都市空間として維持していくためには、利便性の高い交通ネットワークでつなげるための施策が不可欠であり、最新の交通動向などを踏まえたうえで、平成15年に策定した「はだの交通計画」を見直し、本計画として改定いたしました。

本市をもっと元気に、「住みやすいまち、住んでよかったまち、住み続けたいまち」の実現に向けて、安全で安心な利便性の高い交通環境を充実させるために、引き続き、市民の皆さまのご理解とご協力をいただきながら、本計画の実現に努めてまいりたいと考えております。

最後に、本計画の策定に当たり、貴重なご意見やご提言をいただきました秦野市総合都市交通体系調査検討協議会及び同幹事会の委員の皆さまをはじめ、多くの市民の皆さま、関係機関各位に心より厚くお礼申し上げます。

平成28年3月

秦野市長 古谷 義幸

目 次

第1章 交通計画の改定に当たって	1
1 背景・目的	1
2 前回計画の概要	1
(1) 策定の背景・目的	1
(2) 基本目標と方針	2
(3) 長期交通計画の位置付け	2
(4) 前回計画の評価・分析	3
(5) 交通計画改定の必要性	5
3 本計画の位置付け	6
4 目標年次	12
5 検討フロー	12
第2章 交通を取り巻く現況と変化	13
1 社会情勢の現況と変化	13
(1) 人口動向	13
(2) 産業動向	15
(3) 観光	16
(4) 環境	17
(5) 防災	18
(6) 土地利用等	19
(7) まとめ	20
2 交通環境の現況と変化	23
(1) 交通行動	23
(2) 交通に対する市民ニーズ	27
(3) 道路交通の状況	28
(4) 公共交通の状況	31
(5) まちづくりとの連携	33
(6) まとめ	34
3 交通を取り巻く課題	37

第3章 交通計画の目標と施策	38
1 将来都市交通像	38
2 基本目標と基本方針	39
(1) 基本目標	39
(2) 基本方針	41
3 将来交通需要の見通し	42
(1) 前提となる将来人口動向	42
(2) 将来交通需要	43
(3) 交通需要の特性からみた各交通体系の考え方について	45
4 交通体系形成方針	46
(1) 道路交通体系	46
(2) 公共交通体系	54
(3) 歩行者・自転車交通体系	56
(4) まちづくり交通体系	58
(5) 交通需要マネジメント等	60
5 施策展開方針と期待される効果・目標	62
交通施策の実施方針と施策別の評価指標・目標	62
6 将来の望ましい交通計画の姿	66
(1) 長期交通計画に基づく全市的な交通施策の展開	66
(2) 長期交通計画の実現に向けた短期的な対応	68
第4章 交通計画の実現に向けて	70
1 マネジメントサイクルの構築	70
2 交通計画の推進体制と役割	72
参考資料	73
1 これまでの検討経緯	74
2 秦野市総合都市交通体系調査検討協議会 設置要綱	75
3 検討体制	78
4 用語解説	86

※表やグラフについて
 小数点以下、四捨五入の関係で、各カテゴリーの数値合計が一致しない場合
 や、パーセントの合計が正確に100とならない場合があります。